

2016年(平成28年)

4月15日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■概況

3/31～4/6のNYMEX・WTIは、4カ国による原油市況対策の会合の行方が不透明になったとの見方などからさらに下落し、35～38ドルで推移した。

4月7日は、高在庫水準が改めて意識されたこと、前日の値上がりを受け利益確定の動きが出たことから、3営業日振りに反落した。5月限の終値は、前日比0.49ドル安の37.26ドルとなった。

週末8日は、ドル安の進行、カナダでのパイプラインの原油漏れ、米国の稼働リグ数の減少などから値上がりした。5月限の終値は、前日比2.46ドル高の39.72ドルで終了した。

週明け11日は、ドル安の進行、17日の産油国会合への期待などから続伸した。5月限の終値は、前日比0.64ドル高の40.36ドルと3週振りに40ドル台で終了した。

12日は、17日の会合でサウジとロシアがイラン抜きでも増産凍結に合意する方針を確認したと述べたことから続伸した。5月限の終値は、前日比1.81ドル高の42.17ドルだった。

13日は、EIA(米エネルギー情報局)の石油統計で、原油在庫は市場予想を上回る増加となつたため反落した。しかしガソリン在庫が減少したこと、17日の産油国会合への期待などから下落幅は限定的だった。5月限の終値は、前日比0.41ドル安の41.76ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週は続落し33～35ドルで推移した。7日は36.30ドル、8日は36.00ドル、週明け11日は37.70ドル、12日は38.70ドルと続伸、13日は40.00ドルと4カ月振りの高値となつた。

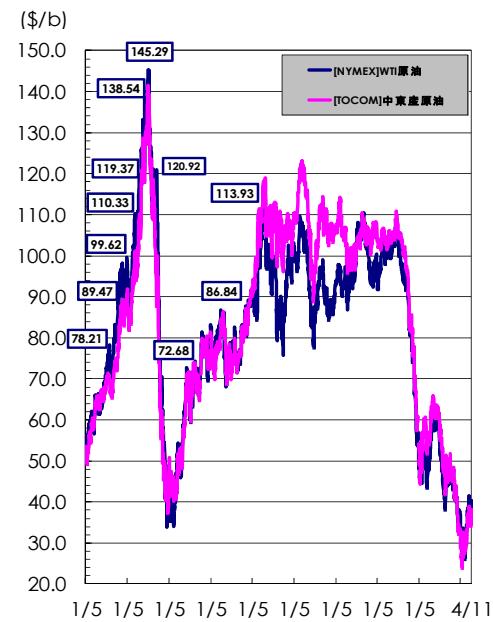
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/3～4/9	3,736	▼ -34	▲ -
	トップ稼働率 (%)	〃	88.0	▲ 0.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/9	14,802	▲ 451	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/11	38.08	▲ 3.26	▼ -18.9
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	4/11	40.36	▲ 4.66	▼ -11.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月中旬	31.37	▲ 0.43	▼ -23.41
①	原油CIF単価 (¥/kl)	〃	22,349	▲ 341	▼ -18,939
②	ドル換算レート (¥/\$)	〃	113.25	▼ -0.15	▲ 6.58
③	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/11	109.11	▲ 3.36	▲ 12.11

為替は、前週は110～112円台の円高で推移した。7日は109.60円、8日は108.85円、週明け11日は108.11円、12日は108.10円で一時107円台を記録するなど円高が進行した。13日は108.67円。

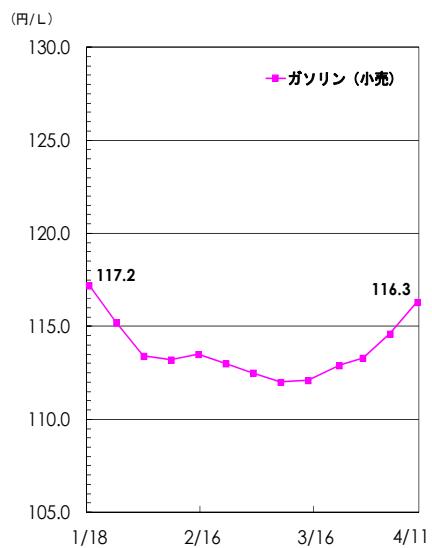
財務省が8日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、3月中旬の原油輸入平均CIF価格は、22,349円/klとなり、前旬を341円上回った。ドル建てでは31.37ドルで前旬比0.43ドル高。為替レートは1ドル/113.25円。

主要元売会社の4月第3週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、2.0円の値下がりから横ばいだった。原油は小幅に値上がりしたもの、為替の円高の影響が大きく、原油コストは小幅な値下がりだった。

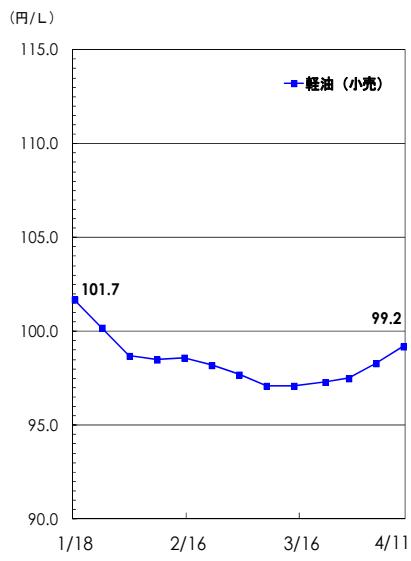
そのような中で、4月11日時点の小売価格は、ガソリンが1.7円値上がりの116.3円、軽油は0.9円値上がりの99.2円、灯油は0.4円値上がりの61.8円となった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油は4週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がり。この週の原油コストは値下がりだったが、元売りの卸価格は据え置きで、前週までの卸値上がりの影響もあり、前週に続き47全都道府県で値上がりした。



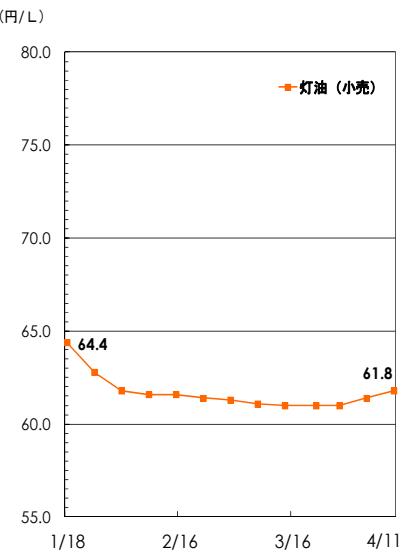
ガソリン		今週		前週比	前年比	
需給	生産	4/3 ~ 4/9	995	▼ -177	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.	
	出荷	"	832	▼ -219	▼ -	
	輸出	"	93	▼ -34	▲ -	
	在庫	4/9	1,753	▲ 71	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	4/5 ~ 4/11	39.4	▲ 0.9	▼ -16.6	
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	4/5 ~ 4/11	39.6	▼ -0.3	▼ -18.8	
		(TOCOM/中部)	4/11	39.2	▲ 1.5	▼ -19.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/11	116.3	▲ 1.7	▼ -22.7	
	※業転、先物価格は税抜き価格					



軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	4/3 ~ 4/9	709	▼ -94	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	518	▼ -161	▼ -
	輸出	"	111	▼ -170	▼ -
	在庫	4/9	1,402	▲ 80	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	4/5 ~ 4/11	37.4	▲ 0.9	▼ -15.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	4/5 ~ 4/11	33.5	▼ -1.2	▼ -21.9
		(TOCOM/中部)	4/11	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/11	99.2	▲ 0.9	▼ -19.5
	※業転、先物価格は税抜き価格				



灯油		今週		前週比	前年比	
需給	生産	4/3 ~ 4/9	264	▼ -110	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.	
	出荷	"	236	▼ -71	▼ -	
	輸出	"	0	▼ -50	▼ -	
	在庫	4/9	1,173	▲ 28	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	4/5 ~ 4/11	35.7	▼ -1.1	▼ -17.8	
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	4/5 ~ 4/11	33.5	▼ -1.3	▼ -20.9	
		(TOCOM/中部)	4/11	34.5	▲ 0.5	▼ -19.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/11	61.8	▲ 0.4	▼ -22.1	
	※業転、先物価格は税抜き価格					



■ 関連情報

1 海外/原油

13日のNYMEX市場のWTI原油は、EIAの週間石油統計で、原油在庫が市場の予想以上に増加したことから、値下がりした。

EIAが発表した週間石油統計は、原油在庫が事前予想(190万バレル増)に対し、660万バレル増となつたことから、反落した。ドル高の進行も値下がり要因だった。しかし、主要産油国による増産凍結への期待が根強く、下げ幅は限定的だった。

5月限の終値は、前日比0.41ドル安の1バレル41.76ドル、6月限の終値は、前日比0.49ドル安の1バレル43.01ドルだった。

EIAによると、4月11日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比1.4セント値下がりの1ガロン2.069ドル(60.0円/㍑)となった。ディーゼルは1.3セント値上がりの2.128ドル(61.7円/㍑)。ガソリンは8週振りの値下がり、ディーゼルは2週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、4月3日～4月9日に休止したトッパー能力は、26.5万バレル/日と先週から1.5万バレル/日の増加。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は373.6万㎘、前週に比べ3.4万㎘減。前年に対しては3.5万㎘の増加。トッパー稼働率は88.0と前週に対しては0.9ポイントの増加、前年に対しては3.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、C重油のみが増産となり、その他の油種で減産となつた。ガソリン/15.1%減、ジェット/32.2%増、灯油/29.5%減、軽油/11.7%減、A重油/19.7%減、C重油/3.5%増。今週のC重油の輸入は0.5万㎘(前週比3.4万㎘減)。軽油の輸出は11.1万㎘(前週比17.0万㎘減)。

出荷(販売量)は、前週比ではジェット、C重油で増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェットのみが増加し、その他すべての油種で減少した。元売各社の仕切価格値上げを受けて、47都道府県で小売価格が値上がりするなどの影響もあり、ガソリンで83.2万㎘(対前週20.8%減)と2週振りに100万㎘台を切り、前年割れとなった。

ジェット16.3万㎘(対前週19.9%増)、灯油23.6万㎘(対前週23.1%減)、軽油51.8万㎘(対前週23.7%増)、A重油22.1万㎘(対前週18.1%減)、C重油27.7万㎘(対前週0.7%増)。

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月9日時点の在庫はガソリン、灯油、軽油で積み増しとなり、前年に対してはガソリンのみが積み増し、A重油は横ばいで、その他の油種で取り崩しとなつた。

ガソリンは175.3万㎘、前週差7.1万㎘増。前年に対しては4.0万㎘多い。

灯油は117.3万㎘、前週差2.8万㎘増。前年に対しては9.8万㎘少ない。

軽油は140.2万㎘、前週差8.0万㎘増。前年に対しては8.8万㎘少ない。

A重油は76.1万㎘、前週差0.9万㎘減。前年に対しては横ばい。

C重油は195.3万㎘、前週差1.2万㎘減。前年に対しては7.4万㎘少ない。

(単位:千㎘)			
	今週 (4/3 ~ 4/9)	前週 (3/27 ~ 4/2)	前週比
ガソリン	832	1,051	▼ -219 (-21%)
ジェット燃料	163	136	▲ 27 (20%)
灯油	236	307	▼ -71 (-23%)
軽油	518	679	▼ -161 (-24%)
A重油	221	270	▼ -49 (-18%)
C重油	277	275	▲ 2 (1%)
合 計	2,247	2,718	▼ -471 (-17%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

(単位:千㎘)			
	今週 (4/9)	前週 (4/2)	前週比
ガソリン	1,753	1,682	▲ 71 (4%)
ジェット燃料	883	903	▼ -20 (-2%)
灯油	1,173	1,145	▲ 28 (2%)
軽油	1,402	1,322	▲ 80 (6%)
A重油	761	770	▼ -9 (-1%)
C重油	1,953	1,965	▼ -12 (-1%)
合 計	7,925	7,787	▲ 138 (1.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月5日から4月11日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高で、原油コストは小幅な値下がりと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン92~93円台、軽油36~37円台、灯油35~36円台だった。海上スポット価格は、ガソリン92~93円台、軽油37~38円台、灯油32~33円台である。また、先物価格はガソリン92~94円台、軽油33~34円台、灯油33円台だった。卸価格値上がりの影響が製品スポット市場にも波及し、製品市況も堅調だったが、灯油と先物がやや軟調だった。

EMGマーケティングは14日、16日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種2.0円引き上げる旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの値下がりの影響を受け、先物からやや軟調に転じた。週間のガソリン販売量は、卸価格値上がりの反動で100万㎘を下回った。

4月第3週(4月14日~4月20日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(4月5日~4月11日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.9円、軽油も0.9円の値上がり、灯油は1.1円の値下がり、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円、灯油は1.3円の値下がり、軽油は1.0円の値上がりだった。また先物価格は、ガソリンが0.3円、灯油が1.3円、軽油が1.2円の値下がりだった。原油コストは小幅な値下がり、スポット製品価格は先物から軟調に転じつつある。

4月第3週の大手元売の卸価格は、2.0円の値下がりから横ばいだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

ス ポ ッ ト 価 格	(RIM)			(単位:円/㎘)
	今週 [4/5 ~ 4/11]	前週 [3/29 ~ 4/4]	前週比	
レギュラー	39.4	38.5	▲ 0.9	
灯油	35.7	36.8	▼ -1.1	
軽油	37.4	36.5	▲ 0.9	

先 物 価 格	(TOCOM)			(単位:円/㎘)
	今週 [4/5 ~ 4/11]	前週 [3/29 ~ 4/4]	前週比	
レギュラー	39.6	39.9	▼ -0.3	
灯油	33.5	34.8	▼ -1.3	
軽油	33.5	34.7	▼ -1.2	

※上記価格は税抜き価格

油種	参考値 (4/5~4/11実績値)			(単位:円/㎘)
	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 0.9	▼ -0.3	▲ 0.3	
灯油	▼ -1.1	▼ -1.3	▼ -1.2	
軽油	▲ 0.9	▼ -1.2	▼ -0.1	
A重油	▲ 0.7			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月11日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.7円値上がりの116.3円、軽油は0.9円値上がりの99.2円、灯油は0.4円値上がりの61.8円だった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油は4週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がり。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは47全都道府県、横ばい、値下がりはなかった。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、高知県(前週比1.2円高)の107.3円で、徳島県(同1.4円高)が111.9円で続いている。最高値は鹿児島県(同1.0円高)の124.7円だった。都道府県別

で最も値上がりしたのは滋賀県(同4.0円高)で115.3円だった。

原油コストは値下がりしたものの、卸価格は一部を除き据え置きだった。製品スポット市況もやや軟調に転じつつある。次週の小売価格は、前々週までの卸価格引き上げの影響と原油コストの値下がりとの綱引きが予想され、小幅な値動きと見られる。

(単位:円/㎘)

(資源公表) [週動向]	今週 [4/11]	前週 [4/4]	前週比	直近高値
レギュラー	116.3	114.6	▲ 1.7	08/8/4 185.1
灯油	61.8	61.4	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	99.2	98.3	▲ 0.9	08/8/4 167.4

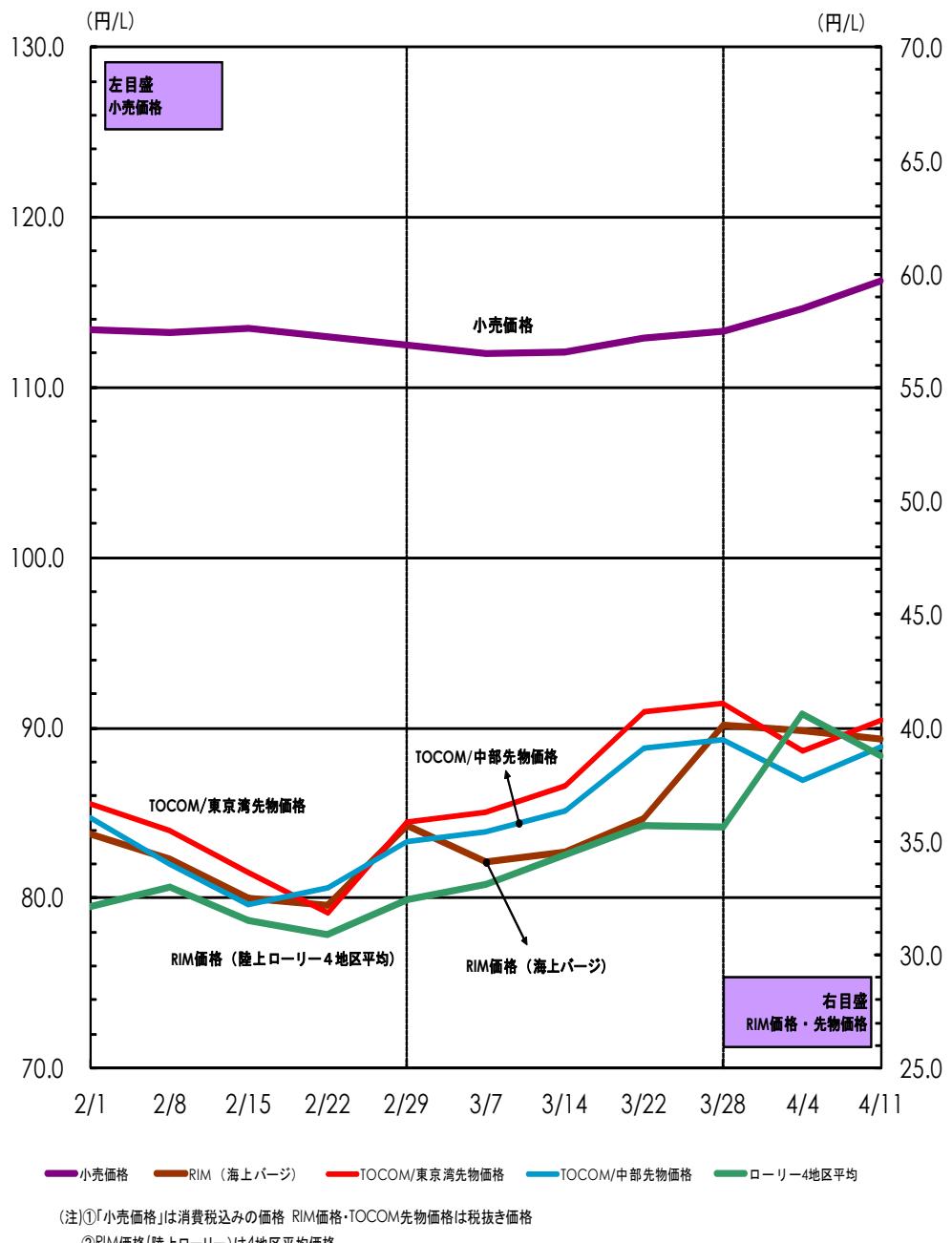
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/2/1 ~ 2016/4/11)



■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2016第4号) の公表は、4/22 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年4月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LARRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。